

碩 心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可
神奈川 碩心 会 発行

11年 3月現在 逗葉大 (合)	3月現在 地区 地区 地区 計	会員数 133名 194名 33名 360名	11年 3月 (320号)	発行者 千 葉 岳 関 編集者 白 井 岳 麗
------------------------	-----------------------------	------------------------------------	---------------	----------------------------

行事予定

○総伝会 (総会)

日時・4月4日(日) 午後1時受付

1時30分より総会

場所・県横須賀商工労働センター

○皆伝会

日時・5月9日(日)

場所・逗子会館二階(グリル)

会費・三千円

当番・大船地区

申し込み切 3月30日 各地区長まで

※新総伝者の許証授与が行なわれます。

第四回神奈川県本部年齢別吟詠大会

5月4日(休) 9時~17時

栄区民文化センター(リリス)に於て、開催される吟詠大会に碩心会より左記の皆さんが出吟されます。応援しましょう。

漢詩の部

松岡杏風 岸田浩風 佐々木邦風

草柳武風 広瀬晴岳 中尾松泉

大屋正岳 野田公岳 渡辺英山

和歌の部

佐久間爽岳 高館弘山 嵐田光風

白井照岳

○碩心会の入会届について

各支部に於て入会届を出す時、氏名に関しては本人の自署、或いは代筆の場合必ず本人の確認を得て提出して下さい。

碩心会青少年部新設

2月15日、常任理事会にて青少年の育成のために、青少年部を新設することに決定いたしました。

新部長には神奈川県本部青少年部副部長である碩心会許証部長の上村岳章が当面兼任することになりました。また許証部副部長加藤芳岳、根岸啓岳も共々兼任いたします。

青少年部に関することで何かご意見、ご希望がございましたら、青少年部までお寄せ下さるようお願いいたします。

吟行会のお知らせ

1月号の月報「碩心」に予定として掲載いたしました。山形県寒河江のさくらんぼ狩りを兼ねた吟行会の実施が正式に決定いたしましたので日程等お知らせいたします。

各支部への詳細な通知及び参加者の募集は別途行いますが、多くの方が参加されますよう今から予定に組み入れて下さい。

日時・平成11年6月13日(日)～14日(月)
行程・

6月13日 朝6時30分観光バスにて逗子発
↓那須高原↓寒河江(昼)

吟魂碑前にて寒河江吟友会との
交流及びさくらんぼ狩り

↓上山温泉(泊)
6月14日 上山温泉発↓御釜↓蔵王こけし

館、酪農センター↓二本松大隣
寺にて墓参(嗚呼二本松少年隊
の合吟)↓逗子着 21時30分

費用・三万円

募集人員・80名

神奈川県青少年部担当者会議行われる

青少年部 上村 岳章

3月11日県本部事務所にて県本部各会青少年担当及び青少年を直接指導されている先生方により行われ、碩心会より白井岳麗先生及び上村が出席させて頂きました。

会議は午後6時より行われ県本部青少年部長栗原先生、副本部長渡辺先生の挨拶で始まり、青少年指導の苦労話や報われた時の喜びなど、内容については吟道神奈川の盛夏号に記載される予定です。

又総本部の事業として来る8月8日(日)東京九段会館にて全国青少年吟道大会が左記の要領にて開催されます。

これから入会される方でも結構です。是非ご協力下さいとのことでした。

- 一、参加資格・25才以下
- 二、合吟の部、独吟の部(神奈川県地区で百名以上、組合せは当局で)
- 三、参加無料(保護者等も含む)
- (小学生以下にはメダルが贈られます)

四、締切は3月末日
参加希望者及び問合わせは青少年部上村まで

昇伝認許 (5月1日付)

(皆伝 18名)

- 481 新井 順子(瑞岳) 217 荒井シズエ(孝岳)
- 190 小金美智子(智岳) 189 森 久美子(暎岳)
- 188 田中 好子(景岳) 187 山下八志真(恵岳)
- 185 土井 貞子(貞岳) 184 中山 俊江(俊岳)
- 183 松井タケ江(梅岳) 182 藤原 茂子(華岳)
- 180 人見 久雄(海岳) 178 守谷 信子(信岳)
- 177 角田たみ代(浪岳) 176 角田 久江(寿岳)
- 175 高橋 松枝(松岳) 173 鈴木美佐子(賢岳)
- 144 野口紀代子(紀岳) 116 西山 隆治(隆岳)
- (九段 15名)
- 138 佐藤由紀子(由岳) 137 鈴木 千エ(千岳)
- 135 加藤 芳子(芳岳) 134 大坪 克子(久岳)
- 133 広瀬 春雄(晴岳) 131 黒崎 武幸(幸岳)
- 130 小池 和子(和岳) 129 小菅 幸枝(幸岳)
- 127 小西 カツ(勝岳) 126 高井 道子(道岳)
- 125 矢嶋 時子(晃岳) 123 荒木アイ子(佳岳)
- 121 一柳 良治(良岳) 119 鈴木 初江(江岳)
- 117 青木ケサノ(梅岳)
- (十段 4名)
- 98 大屋 正衛(正岳) 96 松井 正治(正岳)
- 93 黒沢はな子(華岳) 92 福本 辰男(辰岳)

皆伝審査を受けて

逗子 A 森 暎 岳

当日、朝早く目が覚め、とうとう審査の日が来てしまったと、まず思いました。

審査の日が近づくにつれ思うことは、もっと早くから練習しておけば良かったといつも反省の繰返しです。

審査の会場に着いてからは、横須賀第二地区が最後の受審順だったので、自分の名前が呼ばれるまでドキドキして落ち着きませんでした。詩吟を始めて早や15年。松井先生から皆伝を取れるのは順調にいつても15年ばかりと聞いておりました。私としては良くここ迄続けてこられたものと、またその間には思い通りに吟が出来ずに、やめたくなったことも何度かありましたが、今は皆伝が頂ける迄に至ったことを嬉しく思い松井先生に感謝しております。

またこれからも教場の皆様と楽しく続けたいと思っています。

どうぞこの後も御指導よろしくお願い致します。

心あらたに

堀内 B 白 井 照 岳

本当でしたら今度十段を受審する予定でしたが、家族の病気のためしばらく詩吟の勉強から遠ざかっておりました。

再三のお勧めにもかかわらず忙しく過ごしており、講習を受ける心の余裕も、時間もありませんでした。

今ようやく、心を取り戻して二月より少し声を出してみようかと、又お仲間に入れて頂き、勉強することになりました。

査定も今度から、教本を見てもよし、書取も無しという条件になり、それならば受ければよかったと笑い話になり悔やんでおります。

年令を自覚しながらまた年令を忘れる事も共に大切であるとの頃しみじみ思われます。

あと何年元気で吟じられるか、身体を動かせるかと考えた時に、何か一つふっきた気持ちになり、見栄や体裁をかなぐり捨てて本来のありのままの自分に立ち返って、無心に詩の心に向き合えるのではないかと思えました。この気持ちを大切に、また皆様と心を一つにして励みたい。一つの苦しみを乗り越えて

心新たに道を求めて、ひとすじに進みたいものと思っております。

どうぞよろしくお願い致します。

風流

滝の坂 佐久間 爽 岳

桃の花や菜の花が咲くと、毎年届けて下さった媼が懐かしい。

秋谷に住み、毎日畠で花や野菜を作っていた。お昼になると杣小屋から七輪を持ち出し干しうどんを茹で、笹の代りに路の葉に包んで木の枝に吊して水気を切る。近くから山うどを探して持参の味噌をつけて食べ、相模の真つ青な海を眺めながら、つけ汁でうどんを啜るといふ。

この話を聞いた時、路の葉や山うどの匂いがするようで、風流だなアと大層羨ましく思ったものである。

李白や良寛など山間に住み、穏やかな日々を過ごした数多くの人びとも風流に違いない。しかしその境地に到達するまでに、どれほど多くの辛苦、努力、栄光、焦燥、諦観を経たのであろうかと思う。

秋谷の白波は今日も静かに寄せていた。

梅に憶う

中村 岳 愛

二月に入ると、わが家の床の間には毎年梅の掛軸を飾ります。古木に花ひらく梅の絵とその傍らに「寒梅」の詩が白文で書かれています。そしてこの季節になるとわが教場では吟のお稽古の始まる前に皆さんで、掛軸をみながら「寒梅」の詩を合吟します。この掛軸は、今は亡き瀬谷吟道会会長高橋岳濤先生からいただいたもので、先生は三年前の二月十一日、まさに梅の花の盛りの頃、あの世に旅立たれました。この掛軸をみるたびに、先生笑顔が目に見えます。

又わが家の庭の梅の花がほころびはじめると、私は故松井岳洋先生が思い出され、新島襄先生作の「寒梅」の詩とが重なるのです。

庭上の一寒梅 笑つて風雪を侵して開く
争わず又力めず 自ら百花の魁を占む

庭の木々にまじって咲く一株の寒梅、その梅の花は、冬の厳しい風や、或いは雪や霜に笑って耐えしのんだ後、はじめて美しい花を咲かせるのである。別に他のものと争うわけ

でもなく、さりとして力むわけでもない。それでいて梅の花は、自然に他の花々のさきがけとなるという詩の内容と、岳洋先生はまさにこの詩の通りのお人柄で、最高位の総本部長となられました。やさしい笑顔の中に凛とした先生の面影が寒梅と重なります。

梅まつ盛りのある一日、私の教場では庭の梅の花を眺めながら、俳句左記の「梅二題」を勉強いたしました。

梅一輪 嵐雪

梅一輪 一輪ほどの暖かさ

梅の影 鳴雪

夕月や 納屋も既も梅の影

右二題を皆さんで一生懸命勉強してもり上った頃、私はふと思いつき、皆さんこの辺で自作の俳句を作ってみませんか？とお願したところ、左記の俳句が出来ました。

石渡 岳 桂

山路きて 光る海みゆ路の臺

徳本 華 風

墓詣り 今日も地藏に迎えられ

右二句を皆さんで吟じ勉強するというひと幕もあり、梅の季節にふさわしい楽しいお稽古日となりました。

入会

505原 トミ 横須賀市森崎四一二〇一四

(幸和) ☎〇四六八一三六一六五四二

退会

451高田君泉(堀内D) 426角田すみ江(一色)

俳句

磯村 朋 岳

黄の花の風に吹かれて蝶の舞ひ

白梅の陽にほほえみて寺の庭

西岡 清 岳

忌を修す八十路の母に梅匂ふ

沈丁花香りの間に故郷あり

編集後記

甘い香りを漂わせていた梅も盛りをすぎ、桜の蕾もふくらんで、もうすぐそこまで春の足音が聞こえてきました。

これからは行事も多くなってきました。出会いを大切に元気で頑張りましょう。

各教場からのニュースをお待ちしています。

編集部